

愛知県北部における作物在来品種の調査と収集

江花 薫子・石井 卓朗

農業生物資源研究所・ジーンバンク・植物資源研究チーム

Exploration and Collection of Crop Landraces in Northern Area of Aichi Prefecture

Kaworu EBANA and Takuro ISHII

Laboratory of Plant Genetic Resources, Genebank, National Institute of Agrobiological Sciences. 2-1-2 Kannondai, Tsukuba, Ibaraki 305-8602, Japan

Summary

Northern mountainous area of Aichi prefecture was explored for collecting of crop landraces from December 29 to 31 in 2002. During the exploration, six samples of soybean (*Glycine max*), four samples of kidney bean (*Phaseolus vulgaris*), four samples of azuki bean (*Vigna angularis*), two samples of sesame (*Sesamum indicum*), two samples of buckwheat (*Fagopyrum esculentum*) and one sample of *Cassia occidentalis* were collected.

Based on the information from a farmer in Aichi prefecture, crop landraces were still maintained in the Gifu prefecture, where neighbors to Aichi. We contacted to the farmers in Gifu prefecture and collected the five samples of kidney bean, six samples of soybean, one sample of foxtail millet, one sample of barnyard millet and one sample of sorghum landrace. Soybeans and kidney beans were mainly used for boiled bean.

In these areas, the number of landraces kept in each farm is limited, but landrace are still maintained in a whole area.

KEY WORDS: soybean, azuki bean, kidney bean, Aichi prefecture, Gifu prefecture

1. 目的

作物の在来品種は、地域に特有の環境条件の下で、農家による意識的・無意識的な選抜を長年に渡って受けてきた。このような植物遺伝資源の中には、今後の作物育種にとって重要な環境適応性や病害虫抵抗性等の有用な遺伝変異が含まれているものと考えられる。しかしながら、改良種の普及や農家の高齢化に伴って、これまで農家で継続して栽培されてきた在来品種の多くが消失しつつある。これらの在来品種を研究機関が収集し、遺伝資源として保存することは緊急の課題である。

これまで、農業生物資源研究所植物資源研究チームでは、以上のような現状をふまえて、日本国内の在来品種の収集調査を行ってきた。本年度は、これまで未調査であった愛知県北部の中山間地域を対象とした調査を行った。この地域では昨年度、ジーンバンク事業によるゴマおよびエゴマの在来品種の探索が行われており、それらの在来品種があることが確認されている¹⁾。そこで、今年度は豆類を中心に作物全般の在来品種の栽培状況を調査するとともに種子を収集し、当該地域における作物在来品種の栽培状況を把握することを目的とした。

2. 方法

平成 14 年 10 月 29 日から 31 日の 3 日間に渡って、愛知県三河地域北東部の中山間地域において、農家に保存されている豆類等の在来品種の調査・収集を行った。探索経路および調査地点を Fig.1 に示す。10 月 29 日に新城市、30 日に南設楽郡設楽町、鳳来町および北設楽郡稲武町において、農家を訪問し、在来品種の栽培状況と各品種の特性について聞き取り調査を行うとともに、種子の入手が可能な場合には若干量の種子の分譲を受けた。

また、調査中に岐阜県加茂郡北白川村においてアワやキビ等の栽培が行われているという情報を得て電話で問い合わせたところ、在来種を栽培しているとのことであったので、保有している在来品種を分譲していただいた。



Fig.1. 探索経路と調査点.

○：収集地点

3. 収集の結果

愛知県における調査の結果、4集落においてダイズ6点、インゲンマメ4点、アズキ4点、ゴマ3点、ソバ2点、タカキビ1点、ハブソウ1点の、21点を収集した。(Table 1).

今回の探索・収集地域は、海岸近くから標高1000m近い山間地までの範囲を含み、標高差が大きく多様な環境がみられる。それに対応して多様な作物が栽培されていた。新城市のように比較的平地が多い地域では、雑穀類の栽培は少なかったが、やや山間地にはいと1軒あたりの保有点数は少ないながら、アズキやソバ、ゴマなどの栽培が行われていた。

収集したダイズには、種皮色が黄・緑・褐・黒の4種類あった。主に煮豆用に利用されている。比較的平地に近い新城市で収集したダイズは、7月に播種し10月に収穫することだったが、山間地では作期がややずれて、6月中旬に播種し10月下旬に収穫する。アズキは種皮が赤紫色で、赤飯や餡として利用されている。アズキには早生と晩生の2種類があるが、1軒の農家で両方を栽培していることはなく、どちらか一方を栽培していた。インゲンマメには種皮色や種皮の模様に変異があり、煮豆や餡として利用されていた。この地域では郷土料理としてエゴマを利用しており²⁾、最近では地域特産物として栽培しているが、今回調査した地区ではエゴマの在来品種を持っている農家はなかった。

岐阜県加茂郡東白川村は愛知県との県境に近い岐阜県の東部の山村である。この村から送付された在来品種は、ダイズ6点、インゲンマメ5点、アズキ1点、アワ1点、キビ1点、タカキビ1点の、合計15点であった。それぞれの在来品種について、電話での聞き取り調査を行った。

ダイズは「ひちりこぼし」など3点が種皮色が黄色、2点は黒、1点は青であった。種皮色黄の3点は、目の色がそれぞれ異なり、また、粒の大きさも異なっていた。6点のダイズはいずれも6月中旬に2粒ずつ点播し、10月下旬から11月初旬に収穫して砂糖や塩、醤油で味付けした煮豆にする。中秋の名月のころに収穫すれば枝豆としても利用できるが、大方は煮豆にするとのことであった。味噌用には、これらの在来品種のダイズではなく、エンレイやタマホマレのような改良品種を用いている。転作のために、ダイズ全体の作付けは増えているらしい。黒豆のうち、1点は昔から当地で栽培されていた黒豆であるが、もう1点は10年ほど前に「丹波篠山の黒豆」を入手して栽培してきたものである。在来の黒豆の方が若干粒が小さい。在来の黒豆は11月初めに収穫できるが、丹波からの黒豆はやや晩生で11月中旬以降でなくては収穫できない。この地方では11月中旬を過ぎると霜が降りるので、いつまでも青いままで収穫できず栽培しにくいとのことであった。これらの大豆の他に、かつては「ニシキマメ」という緑色の豆があり、きなこにしたそうだが、最近は見かけないとのことであった。

インゲンマメ5点のうち、莢も利用するのは比較的粒の小さい白豆の「インゲンマメ」と呼ばれている豆で、これは莢をゆでて味噌和えなどにして利用する。この他に、主として莢で利用する「キササゲ」というインゲンマメがあるそうだが、収集はできなかった。6月下旬から7月上旬に播種するが、播種時期が早すぎると元の方には莢がつきにくいので、なるべく遅めに播種した方がよい。その他のインゲンマメはいずれも10月ごろに収穫して煮豆

として食べる。種皮色が白く縦長の豆の「ササギ」、鶉模様の「ヨウコササギ」、黒白模様の「パ
ンダマメ」などがある。このうち、ササギは強火で煮ると腹が割れて煮くずれてしまうそうだ。

アズキは6月下旬から7月下旬にかけて播種し、早ければ10月上旬から収穫できる。も
っぱら餡にして、モチの中に入れてたり絡めたりする。

アワやキビは、5月下旬に播種し、10月ごろに収穫する。モチに入れてたり、赤飯に入れ
たりして以前はよく利用したが、収穫後に脱穀したり洗って陰干ししたりする手間がたいへ
んなため、今はあまり利用しなくなっているようだ。

今回収集したタカキビは食用としてではなく箒として利用されているものである。以前は
食用のタカキビも栽培していたがここ数年でなくなってしまったとのことであった。

4. 所感

今回探索調査した愛知県三河地域は、農産物直売所や道の駅等での農産物取引が盛んなこ
とから、農家の栽培意欲は高い。鳳来町などでは、エゴマを用いた地域特産物の開発なども
行われており、他地域からの在来品種の取り寄せ等に配慮して調査を行えば、さらに在来品
種が見つかる可能性は高いと思われた。

しかしながら、中山間地で共通に見られる問題点としての、サル・イノシシ・シカ等の動
物の食害と、栽培者の高齢化とが、この地域でも問題であった。

なお、今回は岐阜県の調査は電話での調査のみであったが、豆類や雑穀の在来品種を現在
も栽培しており、また、かつてはニシキマメや食用のタカキビ等の在来種があったという情
報があることから、当地域での本格的な調査が必要と思われる。

5. 謝辞

今回の収集で、快く調査に協力し種子を提供して下さった農家の方々、および調査にあた
ってご協力をいただいた愛知県農業総合試験場山間農業研究所の皆さまに心より感謝の意を
表します。

6. 引用文献

- 1) 杉浦 誠・安本 知子・横田 一郎・勝田 真澄 2002. 長野県及び愛知県北部におけるゴ
マ及びエゴマ在来種の探索収集. 植探報 18:35-43.
- 2) 「日本の食生活全集 愛知」編集委員会編 1989. 聞き書 愛知の食事 農山漁村文化
協会

Table 1. A list of collected samples in Aichi and Gifu prefectures

愛知県および岐阜県における収集品

収集日 月 日	学名	品種名	収集番号	収集地点	収集情報備考
10 29	<i>Glycine max</i>	シロダイズ	NC011001	新城市日吉前田 51-2	種皮色黄, 茶目. 小粒. 7月~10月, 煮豆
10 29	<i>Glycine max</i>	チャマメ	NC011002	新城市日吉前田 51-2	種皮色褐, 褐目. 7月~10月, 煮豆
10 29	<i>Glycine max</i>	クロマメ	NC011003	新城市日吉前田 51-2	種皮色黒, 黒目. 7月~10月, 煮豆
10 29	<i>Cassia occidentalis</i>	ハブソウ	NC011004	新城市日吉前田 51-3	
10 29	<i>Sesamum indicum</i>	ゴマ	NC011005	鳳来町乗本南 49	6月~9月, 20年ぐらい前から栽培
10 29	<i>Fagopyrum esculentum</i>	ソバ	NC011006	鳳来町乗本南 50	9月上旬~11月上旬, 昔から栽培
10 29	<i>Phaseolus vulgaris</i>	ウズラマメ	NC011007	鳳来町乗本南 51	5月上旬~7月下旬, アズキと一緒にあんとして利用
10 29	<i>Vigna angularis</i>	ボンアズキ	NC011008	鳳来町一色バンバ 30	早生, 盆に収穫, 赤飯, あんとして利用
10 29	<i>Sesamum indicum</i>	クロゴマ	NC011009	鳳来町一色バンバ 30	6月から9月. 2,3年前に近所より入手
10 29	<i>Sesamum indicum</i>	シロゴマ	NC011010	鳳来町一色バンバ 30	6月から10月, 昔から栽培
10 29	<i>Vigna angularis</i>	オクアズキ	NC011011	鳳来町一色バンバ	6月中旬~10月下旬, 3年前から栽培
10 29	<i>Glycine max</i>	マメ	NC011012	鳳来町一色バンバ	種皮色黄, 茶目. 小粒. 6月中旬~10月下旬, 煮豆
10 29	<i>Vigna angularis</i>	ワセアズキ	NC011014	稲武町中当	5月~8月, 草丈30cm位, 早く煮える. 小粒.
10 30	<i>Phaseolus vulgaris</i>	インゲンマメ	NC011016	稲武町中当	種皮色白. 長粒.
10 30	<i>Phaseolus vulgaris</i>	インゲンマメ	NC011017	稲武町中当	種皮色鶉.
10 30	<i>Vigna angularis</i>	オクアズキ	NC011018	稲武町中当	5月~9月末
10 30	<i>Glycine max</i>	アオマメ	NC011019	稲武町中当	種皮色緑, 黒目. 豆腐
10 30	<i>Fagopyrum esculentum</i>	ソバ	NC011020	稲武町中当	
10 30	<i>Phaseolus vulgaris</i>	インゲンマメ	NC011021	稲武町中当	種皮色赤.
10 30	<i>Sorghum bicolor</i>	タカキビ	NC011022	稲武町中当	糲, 春~9月末
10 30	<i>Glycine max</i>	マメ	NC011023	稲武町中当	種皮色黄, 黄目. 小粒.
11 1	<i>Phaseolus vulgaris</i>	ササギ	NC011024	岐阜県加茂郡東白川村越原	種皮色白, 長粒. 6月下旬から7月始め播種. 煮豆. 強火で煮るとはげやすい.
11 1	<i>Phaseolus vulgaris</i>	インゲンマメ	NC011025	岐阜県加茂郡東白川村越原	種皮色白茶斑.
11 1	<i>Phaseolus vulgaris</i>	ヨウコササギ	NC011026	岐阜県加茂郡東白川村越原	種皮色鶉. 6月下旬まき. 煮豆.
11 1	<i>Phaseolus vulgaris</i>	パンダマメ	NC011027	岐阜県加茂郡東白川村越原	種皮色白黒斑. 6月下旬まき. 煮豆.
11 1	<i>Phaseolus vulgaris</i>	インゲンマメ	NC011028	岐阜県加茂郡東白川村越原	種皮色白, 小粒. 6月下旬から播けるが, 早く播きすぎると元の方に莢がつかない. 莢でも食べるが煮豆が主.
11 1	<i>Glycine max</i>	クロマメ	NC011029	岐阜県加茂郡東白川村越原	古くから地元で栽培されている黒豆. 煮豆. 6月中旬播種, 11月始め収穫.
11 1	<i>Glycine max</i>	クロマメ	NC011030	岐阜県加茂郡東白川村越原	何年前かに購入した丹波の黒豆. 煮豆. 地元の黒豆よりやや大きく, 晩生なので収穫しにくい.
11 1	<i>Glycine max</i>	ヒチリコバシ	NC011031	岐阜県加茂郡東白川村越原	種皮色黄. 褐目. 6月中旬播種, 10月下旬から11月始めに収穫. 煮豆.
11 1	<i>Glycine max</i>	ダイズ	NC011032	岐阜県加茂郡東白川村越原	種皮色黄. 黒目. 6月中旬播種, 10月下旬から11月始めに収穫. 煮豆.
11 1	<i>Glycine max</i>	ダイズ	NC011033	岐阜県加茂郡東白川村越原	種皮色黄. 茶目. 上の2つに比べて粒小さい. 煮豆.
11 1	<i>Glycine max</i>	アオマメ	NC011034	岐阜県加茂郡東白川村越原	種皮色青. 黒目. 6月中旬播種. 煮豆.
11 1	<i>Vigna angularis</i>	ダイナゴン	NC011035	岐阜県加茂郡東白川村越原	6月下旬から7月に播種, 早ければ10月始め, 遅いときは10月中旬に収穫. 餡.
11 1	<i>Setaria italica</i>	アワ	NC011036	岐阜県加茂郡東白川村越原	5月下旬播種, 10月ごろ収穫. 赤飯やモチに入れる.
11 1	<i>Panicum miliaceum</i>	キビ	NC011038	岐阜県加茂郡東白川村越原	5月下旬播種, 10月ごろ収穫. モチに入れる.
11 1	<i>Sorghum bicolor</i>	ホウキギ	NC011039	岐阜県加茂郡東白川村越原	5月下旬播種. 箒にする.